

平成28年度 自己評価表（最終報告）

教育方針	人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。	重点目標	120年の歴史 ^と 越え 未来 ^{ひら} を拓け 吾等が宇東 ^{スピリット} 魂
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自	わかる授業の実践	授業研修や教科の連携を推進し、アクティブ・ラーニングなど指導方法を工夫・改善して授業の質の向上を図り、生徒の授業満足度100%を達成する。	B	アクティブ・ラーニングを取り入れることで、授業アンケートによる生徒の授業評価は、ほとんどの項目で4段階中3以上であり、授業改善の成果が上がっていると考えられる。	生徒をより積極的・能動的に活動させて学力を定着させることができるような指導方法や評価方法の研究を継続し、生徒の授業満足度の向上に努めたい。
		相互研修の機会として、年間5回以上の授業参観を実施する。授業アンケートや研究授業参観シートを積極的に活用するとともに、研究授業の深化を図り、授業改善に努める。	B	校内研究授業の実施も良好であり、研究授業後の批評会に加えて、他教科の先生方から多くの研究授業参観シートの提出があった。	アクティブ・ラーニングの公開授業も含めて、年間5回以上の授業参観は概ね達成された。今後も参観シートの改善を図るなど、授業改善に努めたい。
己	学習習慣の確立	教科間で連携し設定した適量の課題に取り組みせるなど、一日3時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。	B	2学期の調査では、3年生の学習時間が大幅に増加し、理・普科は5時間であった。3学期の調査では、2年生は過去3年間最高の学習時間であり、継続的な学びの姿勢が見られる。	理・普科の学習時間は増えているが、商業科1型の学習が徐々に減少しており、学習習慣を身に付けさせる方策の検討・実施が必要ある。
実	理数教育・産業教育の充実	生徒が主体的に課題研究テーマを設定するなど学習意欲の向上を図り、体験的・問題解決型学習を徹底し、研究内容の充実を図る。	B	地域に関わる課題研究のテーマ設定ができてきている。ただし、学習意欲の向上や研究内容の充実の点がまだまだだと思われる。	大学や研究機関との連携を更に深める必要があると考えられる。地域貢献に結びつく課題研究を推し進めたい。
		生徒の自発的・主体的な活動を推進し、各種イベント・コンテスト等に10回以上参加して上位入賞を達成する。	A	今年から開催されることになった各種イベント・コンテストなどに多く参加し、上位入賞を達成することができた。（応募数70、入賞数36）	課題研究の質の向上を図り、全国大会での上位入賞を達成させたい。また、生徒の自発性・主体性を伸ばす指導方法を研究する。
現	希望進路実現	キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、資格取得を奨励して全商検定1級3種目以上合格者70%以上を達成する。	B	ビジネスマナー講習会の実施など、学校生活において幅広く実践できた。また、全商検定1級3種目以上合格者は、68%であった。	2年生対象のキャリア教育講座が少ないので、講座を設けたい。全商協会主催以外の検定試験にも目を向け、幅広く資格取得できるように指導したい。
		望ましい職業観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を把握した就職指導を実践し、早期に採用内定率100%を達成する。	A	就職希望者に対する情報の提供や個に応じた指導を強化し、内定率100%を達成することができた。公務員希望者においても現役合格者が多数出た。	生徒だけでなく、担任や保護者とも情報の共有ができるよう工夫していきたい。情報を収集し、公務員希望者への指導も強化したい。
		進学データの有効活用など教員の進学指導力の向上を図り、国公立大学及び難関私立大学合格者数110名以上を達成する。	B	教員の指導力向上を図り、生徒の進路希望を尊重して指導できた。しかし、難関私立大学の受験者数が減り、合格者数の数値目標は達成できない見通しである。	地元近くの大学でよいと考える生徒や保護者が、今年度増加した。これまでは希望進路の実現を図ることで、目標を達成できていたが、この傾向が続くのであれば、今後は数値目標を検討する必要がある。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
心身健康で豊かな心	基本的生活習慣の定着	身だしなみ指導や生活講話等によって、生徒の規範意識の向上を図るとともに、自律的な生活態度を育成する。	B	身だしなみや生活態度は落ち着いており、基本的な生活習慣が身に付いている。交通ルールを守り、事故防止に努めることができた。	生活講話や交通講話などを通して、自己の行動に責任を持ち、正しい判断ができる態度を育成したい。また、交通マナーの向上を図りたい。
		生徒の健康・安全に留意し、長期欠席・不登校への早期対応に学校全体で取り組み、一か年皆勤率60%以上を達成する。	B	欠席や欠課等の多い生徒に対しては、教育相談課等と連携して対応し、2・3年は一か年皆勤率は60%を達成している。	不登校傾向の生徒を含め、配慮の必要な生徒が増加傾向にあるため、教職員が連携を図り、きめ細やかな対応が求められる。
	人権意識の高揚	「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの早期発見・防止に努め、人権教育を推進し、生徒の自己愛・他人愛の精神を育成する。	B	各学期1回の人権・同和教育ホームルーム活動、年1回の講演会を実施し、生徒の人権意識の涵養に努めた。また、学校生活の各場面において生徒の変化を逃さず、受容的な雰囲気作りを行った。	ホームルーム活動が充実したものになるよう、準備に時間が十分取れるように配慮したい。また、いじめの等の早期発見に向け、細かな観察や教職員の連携を図りたい。
	家庭と連携した個別指導	個人面談・保護者懇談を年間5回以上実施し、生徒及び保護者との相互理解を深め、充実した個別指導を実践する。	A	個人面談・保護者懇談に加え、各教科担任による個別面談を実施するなど、年間5回以上の面談は実施できており、個に応じた生徒理解及び家庭との連携に努めることができた。	面談時間として確保できる時間を設けたり、面談場所の確保などにより充実した指導環境を構築していく必要がある。
	読書の勧め	書物に親しむ場としての図書館の活用を推進し、読書会の充実や図書広報によって読書への関心を高め、一人年間10冊以上の読書を達成する。	B	「朝の読書」の実施もあり、3/13日現在1・2年生の平均読書冊数7.5冊。(昨年度6.0冊)今年度1年生・普科の平均は9.7冊となっている。また、ビブリオバトル形式の読書会を実施したクラスも増えている。	「朝の読書」がより充実するよう、クラス担任の先生方と連携を図っていきたい。今年から「新書」の特設コーナーを期間限定で設置したが、興味を示した生徒も多かったため、引き続き図書館利用の「しかけづくり」に取り組みたい。
ボランティア活動や地域イベントへの参加	一人年間1回以上のボランティア活動や地域イベントに積極的に参加することを通して、地域の活性化に貢献する態度を育成する。	B	ボランティア部・家庭クラブを中心に、各種の活動に積極的に参加し、地域に貢献した。経済研究部など宇和島市への貢献度も高い。	来年度、ボランティア活動の意識を高めて、国体等でも積極的に関わっていく生徒を育成したい。	
魅力ある特別活動	生徒主体の学校行事	学校行事において生徒の主体性を軸に、協調性・独創性及び愛校心を育成し、生徒の学校行事満足度100%を達成する。	A	120周年の節目として、生徒が主体的に取り組み、各行事とも充実した内容であった。ボートレース大会では、今治西・松山東の協力を得て大変盛り上がりを見せた。	本年度同様に、生徒主体に短い準備期間を有効に活用し、学校全体が盛り上がる学校行事の運営に取り組みたい。
	部活動の活性化	指導体制の充実によって魅力ある部活動を推進し、部活動加入率を高め、心・技・体の調和の取れた生徒を育成する。	B	1・2年生女子の運動部加入率は、下降気味である。活性化を目指して取り組んでいきたい。	年度当初の様々な機会を通して部活動の魅力等を発信し、女子の運動部加入率を高めたい。
	全国レベルの部の育成	教員の指導技術の向上を図るとともに、競技力向上のための環境を整備し、10部以上が全国大会出場を達成する。	B	延べ10部以上の全国大会出場は達成したが、団体種目での出場を逃してしまった部も多く、やや残念な結果であった。	個人種目だけでなく団体種目で県の上位を狙える部を増やすには、県のトップ選手は入学してこないのが育成を重点に考え、女子の加入率を上げたい。

※評価は5段階（A：十分成果があった B：かなり成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）